(通巻3906号/毎週日曜日発行/2026.10.25) キリスト品川教会 品川区北品川4-7-40 TEL03(3443)1721

泉のほとり

●三位一体後第二十一主日

今月の詩編「第九十九編」

我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
我らの神、主は聖なる方。



真実に人を心配する人

「私は、あなたがたのことを思い起こす度に、私の神に感謝し、あなたがた一同のために祈る度に、いつも喜びをもって祈っています」との声掛けから始まった、このフィリピ教会への手紙。使徒パウロの教えに誠実に取り組んでいるフィリピの教会を思い起こすことは、捕らわれの身となっている使徒パウロに言い表せない喜びを与えるものでした。しかし、使徒パウロは「あなたがたはそれでよい」とは言いません。本当に重要なことを見分け、キリストの日に備えて、きよい者、咎められるところのない者となるように、究極的には「傷のないいけにえ、ささげ物」となるようにと願い、「たとえ私の血が注がれるとしても、私は喜びます」と話されました。

それに続いて「私はあなたがたの様子を知って力づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています」と話されました。この「力づけられたい」ということばは、「よい」と「たましい」という二つの単語が合わせられたことばで、文字通りには「よいたましいとされる」という意味です。また「テモテのように私と同じ思いを抱いて」の「同じ思い」も、「同じたましい」という言葉です。この2章には、たましいという単語を含む言葉が3回、それも新約聖書でここにだけ表されています。人間の肉体の生と死ではなく、人の本当の生と死を表すために、意図的に用いられたと思えてなりません。フィリピの人のそのたましい、命とその救いを願っている、使徒パウロのたましいを見るところです。

そして少々驚きなのは、そのように兄弟たちのたましいのことを思い、真実に心がける人は「テモテのほかにはいない」と言い、「他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分のことを追い求めています」と続くことです。テモテは人を教え、導く人でありながら、彼自身、キリストを追い求める心を持つ人でした。虚栄心、利己心による空しいことを求める人ではなく、純真にキリストを求める人。だからこそ、兄弟たちのためにも、不純なもののない、キリストのみを示す人です。

「テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるところであり」と語られました。「確かな人物」とは、試され、本物と実証されたという意味合いです。テモテは、石を投げつけられ、数々の迫害を受けるパウロを知っていながら、苦難をもいとわないその呼びかけに応じ、使徒パウロのお働きの初期から終わりまで共にいて、「福音」に仕えてきた人です。「息子が父に仕えるように、彼は私と共に福音に仕えました」ということばには、テモテへの感謝の思いも深く表されているのではないかと思います。

更に「私自身も間もなくそちらに行けるものと、主によって確信しています」との使徒のことばに、この使徒の偉大さを思うのです。1章でパウロは、キリストのところに行きたいと切に願いながら、ここに残されることも「あなたがたのためによい」と話していました。待ち受けているのは迫害、苦難、誹謗中傷です。それでも行くのは、彼らに必要なことを余すことなく与えるためではないでしょうか。自分のことは忘れて、兄弟たちの「たましい」のことを思い、仕えることだけを考える使徒パウロが、この手紙に映し出されています。テモテについて証しした「純真にキリストを求める人」とは、正に、この使徒自身のことと思いませんか。

テモテは恩師パウロ先生の背中を見て、傷のない聖なるささげ物となられたキリストを見たのではないでしょうか。キリストの国の住人は、真実に人を思い、人のために自らを与える「キリスト」に連なる人たちです。私たちもフィリピ教会のように励ましを受け、自分のことではなく純真にキリストを追い求め、キリストから「この人の他にいない」と認められるその幸いへと、使徒パウロと教師テモテと同じたましいで、前進して生きようではありませんか。

（フィリピ二章一九〜二四節 黄 允湜 牧師）

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、
愛と交わりを通して
お互いに成長する教会

《2026年度 教会全体課題》

神さまによって
示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を
祈り求める
ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○礼拝後、御言葉の分かち合いを地下ホールで行います。聖書、讃美歌を持ってお集まりください。

○ミニミニバザーが、一二時三〇～一四時三〇分にあります。

○本日、吉村和雄名誉牧師は広島の日本アライアンス呉教会で奉仕のため、不在です。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《祈りの会より》

本日、祈りの会をホール集会後一三時三〇分開始予定でカナンルームで開催します。皆さまのご参加をお待ちいたしております。

《ルツの会より》

本日の礼拝後、ルツの会を第二・三シオンルームで行います。民数記二八章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇九十九篇】

主こそ王。
諸国の民よ、おののけ。
主はケルビムの上に御座を置かれる。
地よ、震えよ。
主はシオンにいまし、大いなる方。
すべての民の上に高くいます。
御名の大いなること、畏るべきことを告白せよ。
(司・会)
主は聖なる方。

力強い王、裁きを愛し、公平を固く定め
ヤコブに対する裁きと恵みの御業を
御自ら、成し遂げられる。
我らの神、主をあがめよ。
その足台に向かってひれ伏せ。
(司・会)
主は聖なる方。

主の祭司からはモーセとアロンが
御名を呼ぶ者からはサムエルが、主を呼ぶと
主は彼らに答えられた。
神は雲の柱から語りかけ
彼らに掟と定めを賜り
彼らはそれを守った。
我らの神、主よ、あなたは彼らに答えられた。
あなたは彼らを赦す神
彼らの咎には報いる神であった。
我らの神、主をあがめよ。
その聖なる山に向かってひれ伏せ。
(司・会)
我らの神、主は聖なる方。

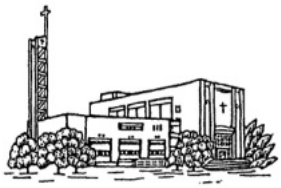
《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教　「どこへ行っても、何があっても」
聖　書　創世記28章10～17節
説教者　宮間 彰広 兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)
説　教　「足を引きずる者となっても」
聖　書　創世記32章23～32節
説教者　宮間 彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)
讃美歌　269番　494番
説　教　「災いをも用いられる神」
聖　書　使徒8章1b～25節
説教者　吉村 和雄 名誉牧師





主日礼拝 (午前１０時３０分)

讃美歌　　７９番　　３８８番
説　教　　「キリストの業に自分をささげ」
聖　書　　フィリピ２章２５～３０節(新約 P.364)
司　式　　石川 一 兄
聖餐司式　黄 允湜 牧師
説教者　　黄 允湜 牧師

前奏曲「天に在します父なる神よ」G.ﾍﾞｰﾑ

○讃美歌７９番

1.ほめたたえよ つくりぬしを
きよきみまえにひれふし
ささげまつれ 身をも魂をも
たぐいなき御名をあがめて

2.くすしきかな かみのちから
あらぶる波をしずめて
あやうきより 御民を守り
この世のなやみに勝たしむ

3.めぐみの神 さかえの主を
もろごえあげてたたえよ
つよき手もて みちびきたもう
主にのみ みさかえつきざれ

アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌３８８番

1.みむねのまにまに 今日も進みゆかん
こころもことばも わざをもきよめて

2.日ごとのつとめを よろこびおこない
ただしきあゆみに み栄えあらわさん

3.こころのうちをも 見たもうわが主の
みさとしかしこみ 御業にいそしまん

4.かたときわすれず 目さめつ いのりつ
主のくびき負いて 栄えの日を待たん

5.うけたるたまもの おしまずもちいて
まさみち馳せつつ 天にのぼりゆかん

アーメン

聖餐曲「わが定めの時きたりなば」J.ﾊﾟｯﾍﾙﾍﾞﾙ

後奏曲「協奏曲ト長調」J.S.ﾊﾞｯﾊ